

KAIST—Kyoto University Joint Symposium of the students, by the students, for the students

京都大学工学研究科材料工学専攻 博士後期課程1年 宮本 吾郎

2003年(平成15年)8月20～22日までの3日間、韓国のKAISTの博士課程大学院生と我々京都大学工学研究科材料工学専攻の博士課程を主とした大学院生で「KAIST—Kyoto University Joint Symposium on Materials Science and Engineering for the 21st Century」を韓国太田市で開催した。KAISTの正式名称はKorea Advanced Institute of Science and Technologyといい、韓国の理工学系の大学ではトップクラスにあり、韓国では義務となっている兵役もほぼ免除されるといったように特別に位置付けられている。

このSymposiumでは、文部科学省21世紀COEプログラム「学域統合による新材料科学の研究教育拠点」の援助によって、韓国側28名、日本側23名の学生が参加し、材料組織、磁性、計算材料、半導体など、非常に広い範囲にわたって、それぞれ口頭発表、ポスター発表両方を行った。このsymposiumの特徴は、発案は教官が行ったが、それ以降の企画・運営は全て学生が行い、学生が主体性を持って行ったということにある。つまり、日韓の学生間で連絡を取り

合ってプログラムを決め、学生が座長をやり、先生方がおられない中で発表、質疑応答を全て英語で行った。その後、日本の学生は韓国の、韓国の学生は日本の学生の各発表に対して、評価を行いそれぞれ優秀賞、最優秀賞を選出した。このような学生主体の交流会やsymposiumは最近少ないながら行われるようになってきているとはいえ、海外の学生と行うのは筆者の知る限り前例がない。少なくとも、日本側の学生には、学生だけでこういったsymposiumを運営する経験はなく、それを全て英語で行うと聞いて正直最初は皆が戸惑いを見せた。そして、果たしてうまくいくのだろうかという懸念が会が始まるまでであった。しかし、始まってしまえば学生だけということもあってか、徐々に打ち解けあうことで学校同士の交流というよりも同世代の友人との交流といった雰囲気生まれ、充実した交流会とすることができた。先生方がこういったsymposiumを発案した背景には、韓国の学生と英語でdiscussionしてコテンパンにやられて英語の重要性を認識して来いといった思案があったらしいが、意に反して日本側の学生の英語も韓国の学生に対して劣っている点もあったものの、発表では堂々と渡り合っていたと個人的には思った。

最近、博士課程に在籍する学生のみならず修士課程や学部の学生についても、国際的に通用するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上といったものの重要性が叫ばれているが、それでは具体的にどうすれば良いのかについては確たるものはない。何よりも経験が大事だと思うが、その機会は十分に与えられてはいないように思う。国際学会など英語で発表する場は限られているし、英語で意思疎通しなければいけない場面など日常はほとんどないと言って良い。そのため、数少ない機会でも緊張したり、消極的になったりして、ますます英語を身につける機会を失い、日本の学生は英語が下手になっているように思う。今回のように学生のみが参加していて、教官を全く気にせずに気軽に英語を話せるような機会は、上のような悪循環を抜け出すきっかけになるのではないだろうか。

今回のsymposiumは来年、京都で行われることが決定している。しかし、このような交流を来年以降も続けていくには、「学生主体でやる」という独自性をもっと模索する必要があると思う。今回のsymposiumは、全くの手探りで企画・運営し無事に開催するといったところを目的としていたため、よく言えば無難に、多少穿って見るとありきたりな形式なものにまとまってしまった印象がある。次回は、より新しい特色を出せるような企画・運営を行いたいと思う。例えば、大学から離れ泊り込みでキャンプやバーベキューなどを行ったり、研究面にこだわらず文化や歴史の面など、人と人との交流をはかって相互理解を深めるといった試みも面白いのではないかなと思う。

今回のsymposiumを通して、我々参加した学生メンバーは、英語力、国際性、表現力などの重要性を痛感し、このsymposiumがそれらの向上のための有効な機会になりうると感じた。そして、同じような試みが広がり、日本の学生の国際化へとつながっていければと期待している。

最後に、「KAIST—Kyoto University Joint Symposium on Materials Science and Engineering for the 21st Century」の開催にあたり支援頂いた文部科学省21世紀COEプログラム・京都大学・材料工学専攻の関係者教官各位および滞在にあたってお世話いただいたKAIST側の関係者各位に感謝いたします。

(2003年9月30日受付)



懇親会での日韓の学生